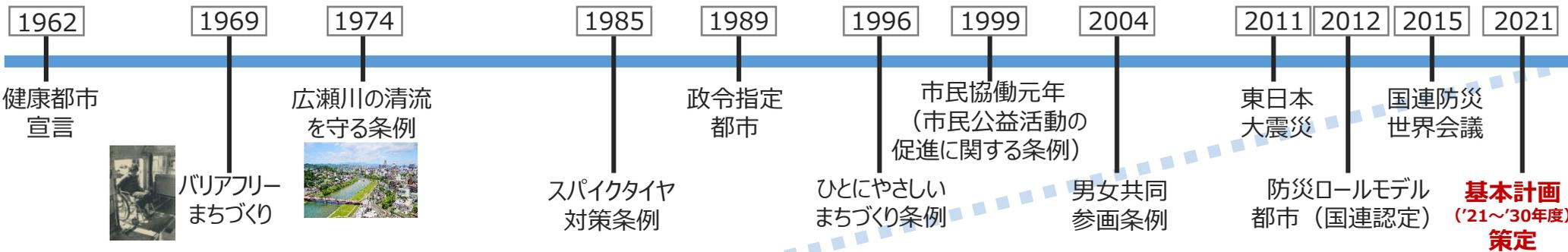


仙台のまちづくりとダイバーシティ

【資料4】



2030 **The Greenest City** の実現

- ・世界を見据えて10年間（2021～2030年度）で達成する目標。
- ・常に高みを目指していく姿勢を、「杜の都」と親和性のある「Green」の最上級「Greenest（造語）」で表現。

※「Green」= 自然（杜の恵みと共に暮らすまち）、心地よさ（多様性が社会を動かす共生のまち）成長（学びと実践の機会があふれるまち）、進め！（創造性と可能性が開くまち）



世界に通じる **ダイバーシティ** の推進 (2025年度～2030年度)

ブースト!!

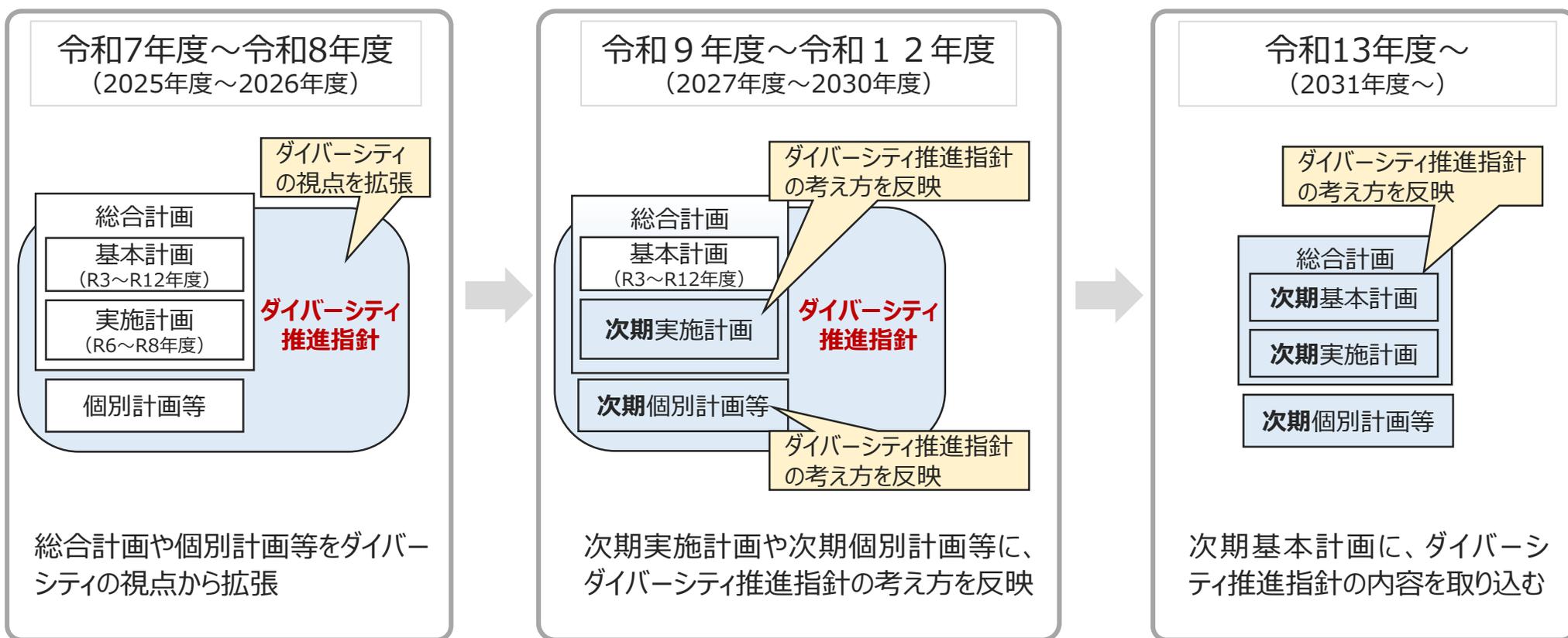
「(仮称) 仙台市ダイバーシティ推進指針」 概要

趣旨：

総合計画等に記載されている本市のまちづくりの視点や施策の方向性をダイバーシティの観点から拡張し、各種施策の検討・実施にあたり、盛り込むべきダイバーシティの視点等をまとめるもの。

期間：令和7年4月～令和13年3月（2025年度～2030年度）

位置づけ：



「(仮称) 仙台市ダイバーシティ推進指針」 構成案

1. 期間と位置づけ ⇒P2のとおり

2. 世界に通じるダイバーシティ

(1)ダイバーシティとは

(2)世界的な議論の動向

(3)仙台らしいダイバーシティ

(4)ダイバーシティ推進の5つの効果

3. 目指す姿

4. 庁内指針

○基本的理念：

・仙台の歴史・文化・都市個性の尊重

・多様な主体の参画によるダイバーシティまちづくり

・地域への展開

○視点1：「ちがい」に配慮のある制度・サービスをつくる

①不利益をなくす ②平等ではなく公平

○視点2：なくてはならない「ちがい」を守る

①「ちがい」への理解 ②「ちがい」の尊重

○視点3：「ちがい」から生まれる多様な価値観や視点をまちの力に変える

①安心して「ちがい」を表現できる ②対話・交流の場をつくる ③掛け合わせ

○視点4：「まだ誰か取り残されているのではないか？」と目を凝らす

①実態の見える化 ②無意識の思い込みへの気づきや固定観念の払拭

○デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用

①市民の利便性向上と参加の促進 ②新たな技術の開発

③データに基づく現状分析と施策立案の循環

5. 進捗管理 (or評価方法)

庁内指針

基本的理念

仙台の歴史・文化・都市個性の尊重

- 藩祖伊達政宗公は、他地域からも職人などの人材を積極的に呼び込み、世界との交流を目指し慶長遣欧使節団を派遣する等、進取の気性に富んでいた。近代以降も、日本初の女子大生の誕生、全国に先駆けたバリアフリーまちづくり、多様な主体が担う防災・減災の取組等に見られるように、本市には多様性を尊重する文化や、市民の主体的な行動力が受け継がれている。こうした歴史や文化、市民協働といった都市個性を大切に、ダイバーシティまちづくりの推進力にする。

多様な主体の参画によるダイバーシティまちづくり

- 「当事者が関わる」、「いろいろな場所やテーマによる参加や議論の場を設定」、「様々な機関や団体、事業者との連携」に留意。

地域への展開

- マジョリティ側の意識変革の重要性、マイノリティ側のニーズについて市民の理解を深める。
- 民間の様々な制度やサービスを見直していく機運を醸成。

取り組みの視点

視点 1

「ちがい」に配慮のある
制度・サービスをつくる

視点 2

なくてはならない「ちがい」を守る

視点 3

「ちがい」から生まれる
多様な価値観や視点
をまちの力に変える

視点 4

「まだ誰かとのこされ
ているのではない
か？」と目を凝らす

デジタルをはじめとした、さまざまな技術の活用

視点1：「ちがい」に配慮のある制度・サービスをつくる

- さまざまな制度やサービス、ルールを、多様な主体の価値観やニーズに適合し、かつ多様な選択ができる柔軟で配慮のあるものへ。誰もが居心地の良さを感じ、安心して快適に暮らせる社会を目指す。

① 不利益をなくす

- 多様な価値観や考え方、ニーズにマッチした施策であるか確認するため、施策や制度の影響を受けるさまざまな当事者の意見を聴く場や、ちがいを疑似体験する機会等を設ける。
- 少数者から求められる対応について、可能な範囲で対応を進める。（合理的配慮）
- 「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」は誰にでも起こりうることへの理解を進める。気づきと修正に向けたアプローチを継続。
- ユニバーサルデザインの発想を導入。

例…ひとにやさしいまちづくり条例、仙台市障害者差別解消条例
男女共同参画の視点に照らした広報物の表現に関する啓発
仙台市家庭ごみ等指定袋や交通局職員名札のユニバーサルデザイン化 など

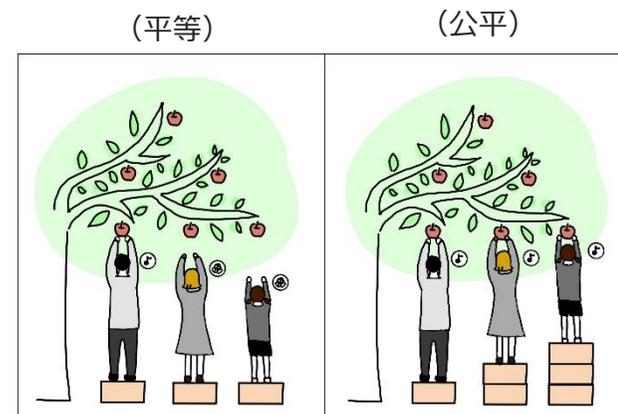


仙台市家庭ごみ等指定袋のユニバーサルデザイン化

② 平等ではなく公平

- これまでの平等な対応から、ひとりひとりに合わせて公平な対応を意識。
- マイノリティへの配慮がマジョリティに不平等感や不安を与える場合がある。必要な説明や周知のプロセスをとる。

例…イベント等での情報保障（手話・要約筆記等）、各種様式の多言語化
市ホームページにおけるウェブアクセシビリティの確保 など



平等と公平のちがい

視点2：なくてはならない「ちがい」を守る

- ・ 人は、さまざまな属性や立場を持っており、誰もが様々な「ちがい」を持つ当事者。
- ・ 年齢、性別、国籍、障害の有無による「ちがい」や、同じ属性の中にも存在する「ちがい」により、どのような価値観や意見・考えがあり、ニーズがあるのかを正しく理解し、尊重される社会を目指す。

① 「ちがい」への理解

- ◇ 市民一人ひとりには、様々な「ちがい」があるという前提で考える。
- ◇ サービスを提供する側（職員）にも様々な「ちがい」があることを理解する。
例…やさしい日本語講座、障害理解促進・差別解消研修、性の多様性を知るリーフレット



やさしい日本語講座の様子

② 「ちがい」の尊重

- ◇ ダイバーシティの推進には、少数者の同化ではなく、共生の意識が重要である。少数者への支援だけでなく、社会が多様性を受け入れるための意識変革の機会を増やす。
- ◇ 社会の変化に対し、市民が不安を覚えることのないよう丁寧な説明に努める。マジョリティの立場からの意義のある意見や考え方にも着目し、調和のとれたダイバーシティまちづくりを進める。
- ◇ ライフイベント（育児、介護等）や、多様な立場や価値観にあわせ、様々な選択ができるようにする。

例…多様な食文化（ハラル、ヴィーガン、ベジタリアン）に対応した新メニュー開発、給食でのアレルギー対応、育児休暇制度、時差出勤



ヴィーガン・ベジタリアン対応メニュー



アレルギー対応給食
(春巻きの皮を米粉で対応)

視点3：「ちがい」から生まれる多様な価値観や視点をまちの力に変える

- ・ 多様性は新しいアイデアやイノベーションの源泉。「ちがい」を受け入れるだけでなく、強みに変えていく発想を持つ。
- ・ 属性に関わらず誰もが成長の機会と恩恵が得られるインクルーシブ・グロースを目指す。

①安心して「ちがい」を表現できる

- ◇ 「ちがい」は克服するものではなく、価値あるもの。社会全体で認識を共有。
- ◇ ありのままに自分らしくいられる心理的安全性を高めることは、多様性のプラス面が機能する土台。多様性を認め合う環境整備を推進。
- ◇ 立場や考え方に「ちがい」があることは、制度や事業の改善の機会。当事者の意見に積極的に耳を傾ける。

例…啓発イベント、パブリックコメントやアンケート、当事者の意見を聴く機会

②対話・交流の場をつくる

- ◇ さまざまな立場や意見・考え方が出会えるよう、多様な主体が参画できる仕組みをつくる。
- ◇ さまざまな属性、背景を持つ市民の良質な交流や建設的な対話を推進。
- ◇ 多様な人々の社会的交流を促進する魅力的でアクセスしやすい公共空間や都市インフラの整備を推進。

例…仙台まちづくり若者ラボ、地域資源とニーズのマッチング、魅力的でアクセスしやすい道路空間や公園



魅力的でアクセスしやすい空間の例

③掛け合わせ

- ◇ 異分野の掛け合わせや多様な主体の掛け合わせで、従来の枠組みを超えた新たな発想やイノベーションが促進される。局区連携、分野横断による施策を積極的に立案。
- ◇ 地元中小企業や起業家の強化により、新しい社会ビジネスモデルなど新たな革新的な産業の創出を促進。多様な人々の能力が生かされ、活躍できる地域経済を目指す。

例…高齢者×子供、企業×子育て、教育×福祉、防災×テクノロジー

クロス・センダイ・ラボ（民間企業等との連携）、仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会、各種連携協定

視点4：「まだ誰か取り残されているのではないか？」と目を凝らす

- ・ 「誰かにとっての一大事は、誰かにとっては一大事ではない」。「誰か取り残されている人がいるのではないか？」という目線で確認していくことが必要。
- ・ さまざまな視点があることで、取り残されているものに気づくことができる。

①実態の見える化

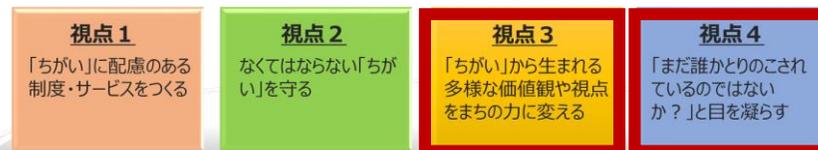
- ◇ デジタル化などの技術も活用し、様々なデータなどの事実に基づき、多様な人々への対話やコミュニケーションを促進する。
- ◇ 様々なデータを活用することにより、現状はどうなっているのか、どこが足りていないのかを色々な目で確認する。

②無意識の思い込みへの気づきや固定観念の払拭

- ◇ 日常生活にある様々な立場や役割を固定しないで考え、役割の偏りをなくす。
- ◇ マジョリティ⇔マイノリティは流動的であることを理解する。
- ◇ 「ちがい」は見えているものだけではないことに注意する。

例…各種データの活用による実態把握、市民の生活状況に関する調査-ひきこもり支援の充実に向けて-
困難を抱える方（医療的ケア児・ひきこもり・認知症等）のご家族や、ヤングケアラーへの支援

- ◆ 視点1、視点2は、これまで一部に取り組んできており、更なる強化が必要。
- ◆ 視点3は、新たな取り組みが特に求められる。
- ◆ 視点4は、ダイバーシティ推進のチェック機能として必要。



デジタルをはじめとした、さまざまな技術の活用

デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用

- 双方向性の特徴をもつデジタルをはじめとしたさまざまな技術は、「公平性の確保」や「アクセシビリティの向上」に資する。最大限活用していくことが重要。
- 多様性に富んだ都市は、新しい技術を倫理的・法的・社会的観点から検証しやすい環境を有し、信頼性が高く幅広いニーズに対応した技術が生まれる。ダイバーシティとイノベーションの掛け合わせで、地域全体が成長。

①市民の利便性向上と参加の促進

- ◇ 技術の活用により、市民一人ひとりのニーズや立場、ライフスタイル等に対応した公平性の確保と利便性の向上を実現するとともに、さまざまな主体が市民参加プロセスに参画できるよう環境を整える。

例…手続きのオンライン化、書かない窓口、診療カーによるオンライン診療サービス、音声読み上げソフト、翻訳ツール、オンライン上の意見聴取など



映像通訳の様子

②新たな技術の開発

- ◇ 多様性に配慮した新たな技術開発を促進し、ダイバーシティとイノベーションの相乗効果が生まれる仕組みを整備。

例…仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会におけるジェンダーイノベーションなど

③データに基づく現状分析と施策立案の循環

- ◇ 公共データや本人同意に基づくパーソナルデータなどを共有・分析し、ダイバーシティ推進のための施策立案と現状評価・向上の循環を生み出す。

例…SENDAIデータダッシュボード、仙台市オープンデータカタログなど



SENDAIデータダッシュボード
(仙台市の保育施設等の空枠状況)